

科目責任者 小笠原 裕樹 (分析化学研究室)

■ 教育目的

機器を用いた分析法は、エレクトロニクス関連技術の発展に伴い多大な進歩が成し遂げられた。現在、機器を用いた分析および解析技術無くして医学の基礎研究や診断は不可能であるといっても過言ではない。本講義では医療および薬学分野で用いられる機器分析法について、その原理を理解し、適用について学習する。各分析法の原理や装置は、Web教材やマルチメディア機器も利用して視覚的に理解できるように学習する。【卒業認定・学位授与の方針:YD-①、YD-⑥】

■ 学習到達目標

1. 生体試料の前処理や取扱い方を説明できる。
2. 臨床分析における精度管理や基準値および標準物質の意義を説明できる。
3. 代表的な分析法の原理、装置、応用例を説明できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書および参考書 (20分以上)

復習：配布プリントの課題 (30分以上)

■ 授業内容

薬学領域の機器分析について基礎と応用を解説する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	機器分析概説と臨床分析における基礎知識	臨床分析における精度管理と標準物質の意義	C2(6)-①-2
2	臨床現場で用いる分析法	生体成分の代表的な分析法と臨床的意義 酵素を用いた分析法等の原理と応用	C2(6)-②-1 C2(6)-②-3
3~4	免疫化学的測定法 およびドライケミストリー	イムノアッセイの原理、EIA、RIA、蛍光偏光イムノアッセイなどの基礎と応用 イムノクロマト等のドライケミストリーの原理と応用	C2(6)-②-2 C2(6)-②-4
5	電気泳動を用いた分析法の応用	プロットング、および各種検出方法 分離精製による工業的応用など	C2(5)-②-1
6~7	臨床に用いる遺伝子の分析法	蛍光を用いた分析法 PCR法を用いた遺伝子解析の原理と応用、網羅的解析法 (マイクロチップなど)	C2(4)-①-2
8~9	画像診断法	原理と装置および応用種々画像診断法の理論、装置、操作および計測法 画像診断で用いられる造影剤	C2(6)-②-5
10	生体成分分析の基礎	分析目的に即した検体の採取、試料の前処理法	C2(6)-①-1
11~12	質量分析法とその応用	質量分析法の原理と装置 各種分離装置との組み合わせによる応用	C2(4)-③-1
13	X線分析法	X線結晶解析法、粉末X線回折測定法、蛍光X線分析の原理と装置および応用	C2(4)-④-1 C2(4)-④-2
14	核磁気共鳴分析法	原理と装置および応用	C3(4)-①-1
15	赤外吸収スペクトル測定法・ラマンスペクトル法	原理と装置および応用	C2(4)-①-3

■ 授業分担者

小笠原 裕樹 (No.1, 8~15)、鈴木 俊宏 (No.2~7)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

期末試験の成績（90%）と授業態度（10%）により総合的に評価する。

■ 教科書

配布プリントおよび『コンパス分析化学』安井裕之（南江堂）

■ 参考書

『薬学分析科学の最前線』（じほう）、『薬学領域の機器分析』（廣川書店）